

工芸品の、郷をたずねて
ひんものに出会う旅

こだわらないから、美しい。
ちょっと先“を見つめたくらしの”装置”。

OPEN STUDIO 高光俊信さん 太郎さん親子(熊本市)



手ざわりがやわらかく、美しいフォルムの錫の器。
かなり細やかな作業が必要です

ツタで覆われたギャラリーの扉を開けると、食器や家具、箒、ちりとりなど、ジャンルを問わず、美しい日用品が並ぶ店内。一見セレクトショップのようですが、すべてが一組の親子による手仕事だというから驚きです。父・高光俊信さんは、20代で紙を使った造形活動をスタート。以来、吹きガラス、鉄、彫金などの技術を学び、あらゆる素材を組み合わせた日用品を手がけてきました。使いやすさと機能美をもちあわせた作品には、全国にファンが多いのもうなずけます。「アートではなく、ちょっと先を見つめ、生活を



OPEN STUDIO

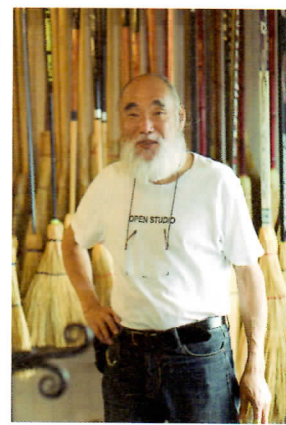
創業当時に植えたツタが目印の「OPEN STUDIO」。鉄のインテリアなど、オーダーメイドも可能です。また、南阿蘇村にある「ASO ギャラリー」では鉄工塾のほか、ホウキやガラストンボ玉づくり、シルバーアクセサリーづくりといった短期体験講座なども開かれています。

住/熊本市中央区本庄町672-2
☎/096-366-5964
営/9:00~18:00
休/なし
入館/無料
http://openstudio.eco.to



快適にするデザインが、僕の仕事」と話す高光さん。幼い頃から父親の背中を見て創作に親しんできた息子さんの太郎さんとともに、つねに新しい日用の「美」を追求しています。

左/「東京の人は僕のことを“ほうきやさん”って呼ぶんだよ」と語る、高光俊信さん
右/建物を覆い尽くすツタ。春先から初夏にかけてが、とても美しい季節だとか



動画へアクセス!

くまもとたいむ 検索
kumamototime.jp



異国情緒名文様のなかに、天草の歴史と文化のストーリーを込めた「平成の天草更紗」(※写真は和紙刷り)



中村いすずさんの工房「野のや」では、更紗染めの体験もできます(※事前に予約が必要)

更紗(さらさ)とはインドを起源として日本に伝わった、鮮やかな色彩と、細やかな模様が印象的な染織布のこと。帯や和装小物などに使われています。天草更紗について、詳しく記されている史料は残っていません。染織家・中村いすずさんは、天草の庄屋に保存されていた更紗の切れ端や台帳など、わずかな資料と文献から、「江戸時代には舶来の更紗が天草に伝わり、職人がまねて製作したに違いなど」と確信したといいます。「天草の更紗を復元してほしい」と中村さんに声がかかり、天草の独自性を研究するうちに、花や動物などの異国情緒あふれるモチーフを描く「物語」を見いだし、平成の天草更紗が生まれ、人々の祈りが込められています。

異国情緒あふれる文様のなかに
物語と祈りを込めて。

平成の天草更紗 中村いすずさん(天草市)

工房 野のや 町家カフェ

平成の天草更紗が生み出される中村さんの染め工房「野のや」。1階には更紗でつくった小物も販売。お茶や食事ができる町家カフェを併設しているので、工房見学、染め体験、食事と一日中のんびり楽しめる空間です。
※染め体験は染めるものによって時間が変わります。お問い合わせください

住/天草市佐伊津町2212-2
☎/090-8393-7001
営/11:00~18:00
休/木曜(不定休あり)
http://www.sarasa-nonoya.com/

